

条幅部自由参考

2月25日正午必着

明石春浦先生書

春前柳葉銜春翠
雪裏梅花帶雪妍
（王勃）

春前柳葉銜春翠
雪裏梅花帶雪妍
（王勃）

菅井松雲先生書

春前から柳は緑に。
梅は花のよそおいをしている。

自出故郷後 東方諸國行 每日過佳境 才短詩不成（良寛）
故郷をあとに 出でてより 東の国々 通りゆく。
日に眺めは よいけれど おろかでさっぱり 詩もできぬ。

2月25日正午必着

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。



明石幸子書

獨釣寒江雪（柳宗元）

ひとり釣る寒江の雪

雪の寒江に独り舟を浮べて釣りする。

雪降れば 山よりくだる 小鳥おほし 障子の外に ひねもす聞ゆ（島木赤彦）

已訝衾枕冷 復見窗戶明
夜深知雪重 時聞折竹聲
華下送文涓（司空圖）
郊居謝名利 何事最相親
漸與論詩久 皆知得句新
川明虹照雨 樹密鳥衝人
應念從今去 還來嶽下頻
山なみは雪かがやかせ 北空を走りつくさむ 海へ落つるまで

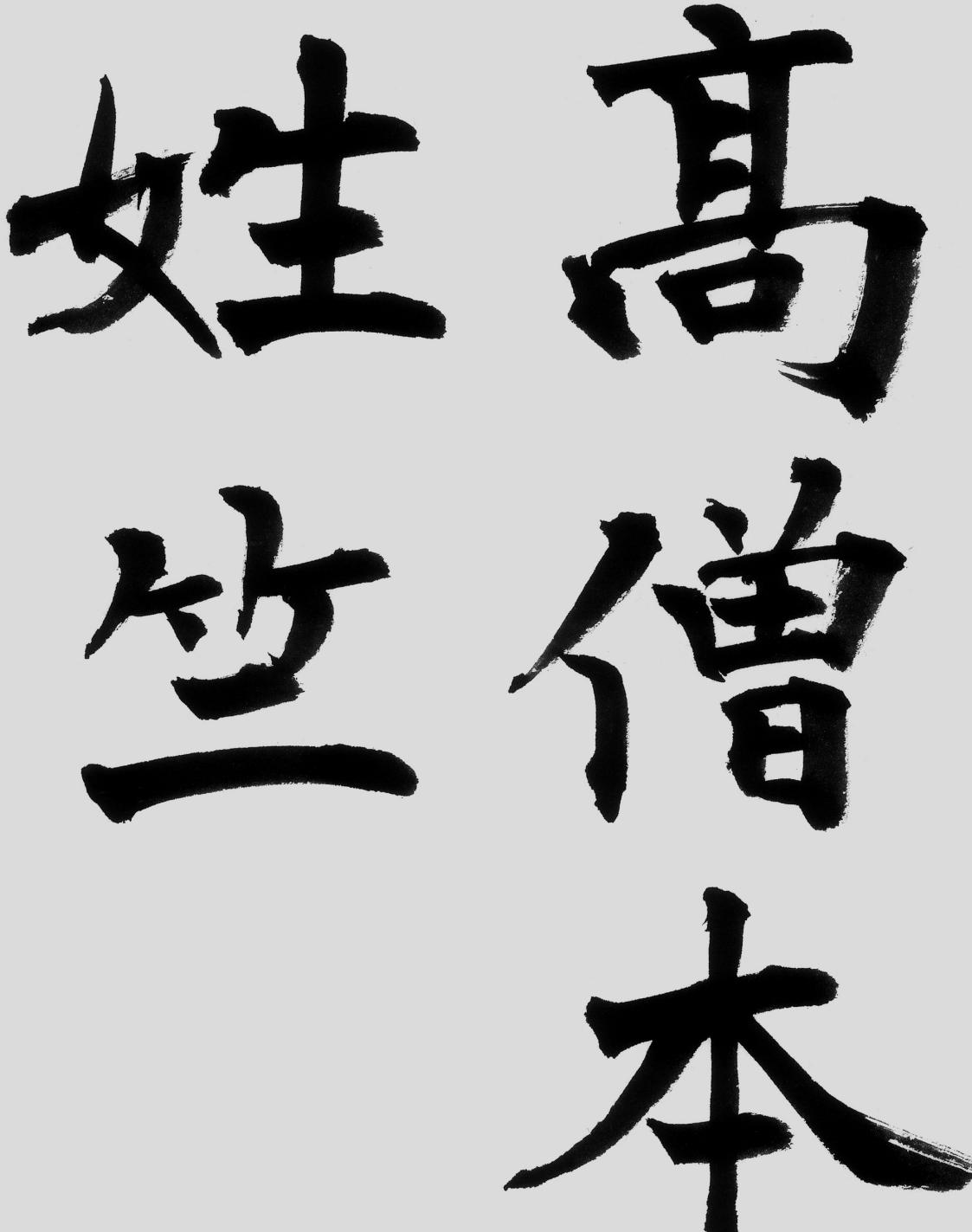
（吉野秀雄）

已訝衾枕冷 復見窗戶明
夜深知雪重 時聞折竹聲
（白樂天）
華下にして文涓を送る
郊居して名利を謝す
漸く与て詩を論ずること久しく
皆な知る 句を得ること新たなるを
川は明らかにして 虹を照らし
樹は密にして 鳥人を衝く
応に念うべし 今従り去るも
還た嶽下に来ること頻りなるを

すでに訝る衾枕の冷やかななるを また見る窓戸の明かなるを
夜深くして雪の重きを知る 時に聞く折竹の声
（司空圖）
雪の寒江に独り舟を浮べて釣りする。
衾枕は夜具と枕。どうも冷えこ
むなと思って窓を見ると明るい。
時おり竹の折れる音がきこえる。
だいぶ雪がつもつたらしい。

半紙部規定課題A

2月25日正午必着



※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

2月25日正午必着

行書

隸書

明石春浦先生書

寄靈一上人

劉長卿

高僧本姓竺

開士舊名林

一去春山裏

千峯不可尋

新年芳草遍

終日白雲深

欲下徇微官

去上

高僧本姓竺

高僧本姓竺

高僧本姓竺

高僧本姓竺

草書

行草書

徳高き上人、本来の姓は竺といい 菩薩のごときお方、もとの名は林という
いったん春山の中に行つておしまいになれば 数知れぬ峰々の奥、お尋ねすることもできません
新たなる年に、春のかぐわしい草があたりいちめんに茂り
一日じゅう、白い雲は深くとざしこめる
ささやかな官職にこの身を捧げて行こうとしておりますが
わかります

(出典)
朝日新聞社刊
『三体詩』下より

靈一上人に寄す
高僧本姓竺
開士舊名林
一去春山裏
千峯不可尋
新年芳草遍
終日白雲深
欲下徇微官
去上

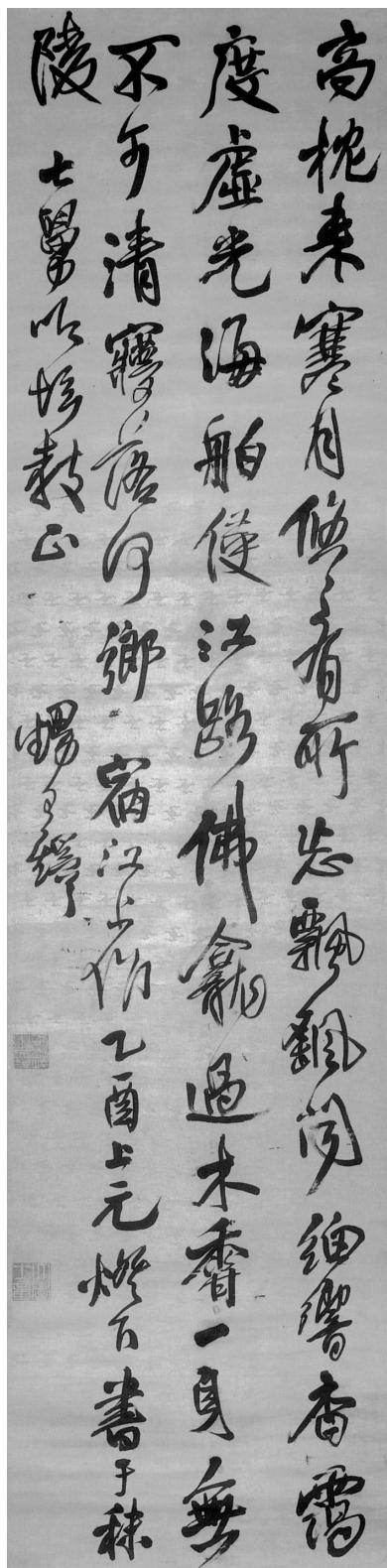
靈一上人に寄す
高僧本姓竺
開士舊名林
一去春山裏
千峯不可尋
新年芳草遍
終日白雲深
欲下徇微官
去上

靈一上人に寄す
高僧本姓竺
開士舊名林
一去春山裏
千峯不可尋
新年芳草遍
終日白雲深
欲下徇微官
去上

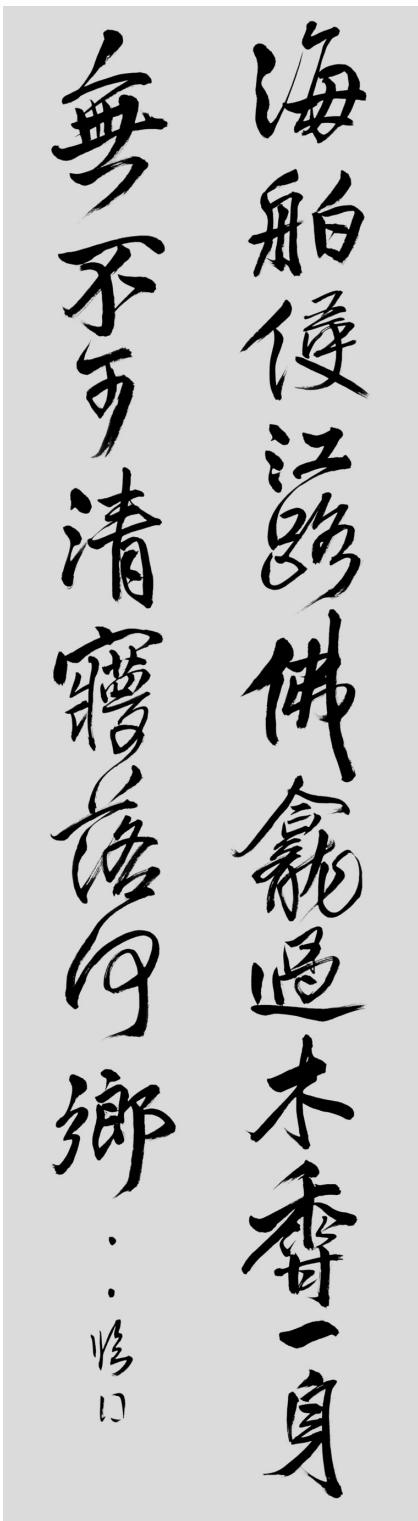
靈一上人に寄す
高僧本姓竺
開士舊名林
一去春山裏
千峯不可尋
新年芳草遍
終日白雲深
欲下徇微官
去上

靈一上人に寄す
高僧本姓竺
開士舊名林
一去春山裏
千峯不可尋
新年芳草遍
終日白雲深
欲下徇微官
去上

条幅部半紙部臨書課題



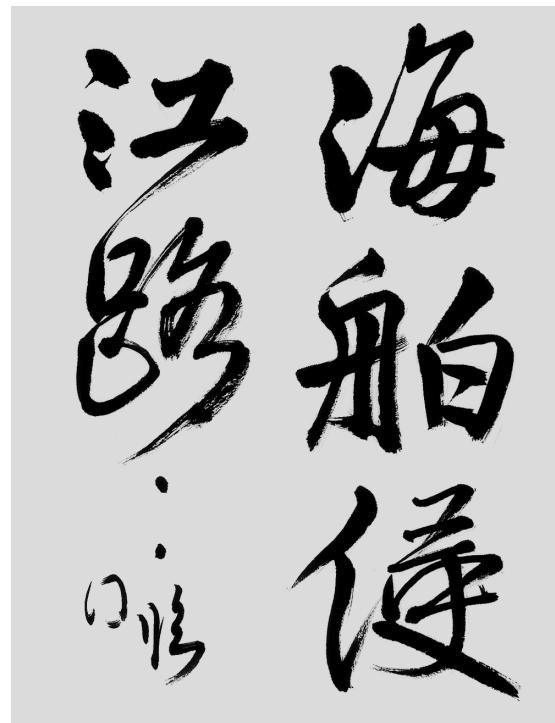
高枕來寒月。悠悠有所忘。
飄颻聞細響。杳靄度虛光。
海舶侵江路。佛龕過木香。
一身無不可。
清夢落何鄉。
宿江上作。乙酉上元燈下。
七舅吟壇教正。甥王鐸。



(春濤)

海舶侵江路。

王鐸は詩文書画をよくしたが、なかでも書は特に名高く、二王を中心
に晋唐の古法帖の臨書に終生心血を注ぎながら、彼独自の自由闊達な連
綿行草の世界を作りあげていった。この宿江上作は王鐸五十四歳の作で、
彼の長條幅作品の中でも比較的連綿が少なく、行の動きもおさえ気味で、
行書中心の作であるが、強く重厚な線や切れ味鋭い線を織り交ぜて、変
化のある字形で構成されていて、見る度に引き込まれていくようである。
(春濤)



海舶侵江路。

王鐸は明の萬歎二〇年（一五九二）河南省孟津に生まれる。明朝末期
の天啓二年（一六三二）に進士となり、明が滅亡した後は清朝に仕え、
「明史」編纂の副總裁などをつとめた。順治九年（一六五二）礼部尚書
となつたが、その年の三月病のために郷里で没した。字は覺斯（または
覺之とも書いた）。号は嵩樵、癡庵。五岳道人など数多い。明朝の遺臣
でありながら清朝に降つたことによって節義に欠ける者として白眼視さ
れたが、彼のような唯美の世界に耽溺した人間としては、そうしたこと
にこだわらず自由な行動をとつたのではないかといわれている。

明末から清初にかけては政治的にも社会的には民族的にも混沌とし
た時代で、書壇においても革新的な傾向におもむきつつある時期であつ
た。そして、そうした中から董其昌や王鐸らを中心として伝統的な書道
からはなれ、新しい理念に基づく書の美しさを求める風潮が生
まれた。

明末清初 王鐸・宿江上作

2月25日正午必着

教 育 部 毛 筆



れん
峰

ほう
峰

中学一年

雨宮春聲先生書



ふゆ
冬

がすみ
霞

中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



流

水

小学五年

檀 戸 春 龍 先 生 書



温

泉

小学六年

横 川 春 川 先 生 書

2月25日正午必着



藤田幸春先生書

王

女

小学三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



冬

草

小学四年

細谷春誠先生書



ふ

じ

小学一年・幼年

明石幸子書



ちゅう

しん

小学二年

森川春濤書

2月25日正午必着

教 育 部 硬 筆

ペ ン 字 部

ばかりでは不健康だ

部屋にとじこもつて

ゆめのような話なの
で半信半疑で聞いた

樹木は自然によつて
つくられた芸術です

節分は新しい季節を
むかえるための行事

雪ふれば冬いもりせる 草も木も 春に知られぬ花ぞ咲きける (紀貫之)

小学五年

小学六年

中 学

一般(級位)

一般(段位)

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

うみんかくわうまち
ふくなまです

はこくごの
百てんでス
こののテス
くいなでス
ごののテス

とさんすう
くいなでス
くいなでス
くいなでス
くいなでス

家のぞくまで
豆をまいた
くでせたつ

大きな川が県ざか
いを流れています

幼年

小学一年

小学二年

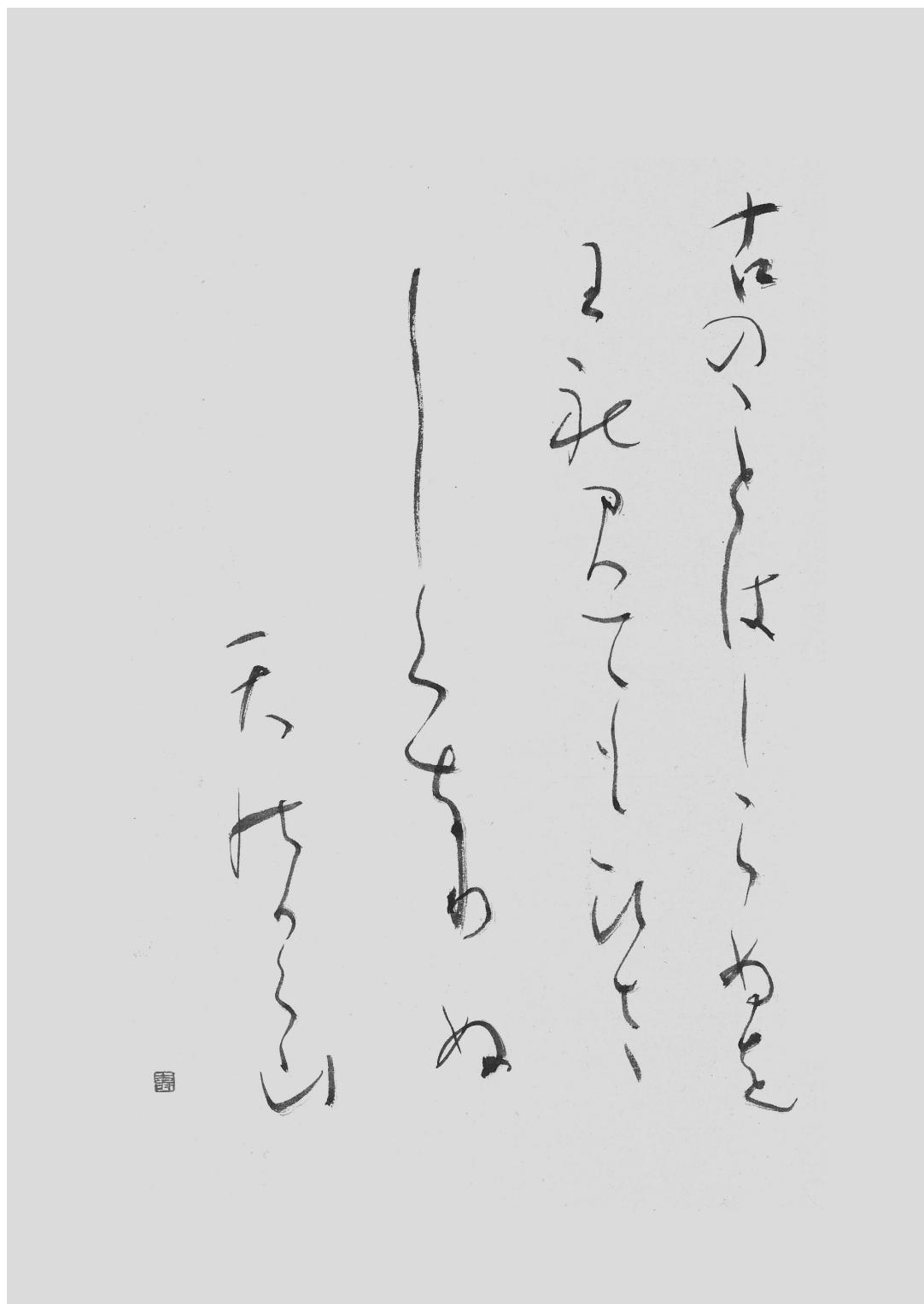
小学三年

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

2月25日正午必着



岩本景楓先生書